# 東京大学医学図書館所蔵呉秀三文庫目録

岡田靖雄

これは、呉秀三先生の一男故呉茂一氏が東京大学医学図書館に一九六一年（昭和三六年）八月三〇日に寄贈され・現在同図書館二階資料室に保管されているものの、目録である。はじめの番号は、同図書館でつけられている整理番号であり、〔　〕内は岡田による解説である。

番号1—3のものは、呉茂一氏から寄託されていたが、のち同氏に返還されたもので、杉田鵠齋書幅「西洋之為医術無他故也」一軸（箱入り）、華岡青洲書幅「医惟在活物窮理」一軸、多紀元堅ほか貼り雑ぜ大書画帖（折り本）一帖であった。また、49番以降のものは、一九四一年呉茂一氏委託により東京大学医学部精神病学教室に保管されていたものが、あらためて寄贈されたものである。

4、「曲直瀬道三等貼雑書画帖」、折り本、一帖〔みあたらず〕

5、「平戸嵐山家旧蔵解剖図巻」、上下（写、彩色画、呉氏新装）、二軸

6、「精神病学随抄」、肖哲画、一軸〔「高野大師行状絵詞」「病草紙」などよりの模抜写、絵は二三面〕

7、翠竹院曲直瀬正慶書曲直瀬道三先生文、一四行、箱入り、一軸

8、小野蘭山先生一行物「方可恃在薬也」一軸〔みあたらず〕

9、新宮涼庭先生書幅、天保二年、一軸

10、小石元瑞書「近郊散策詩」一軸

11、多紀元堅賛・昧古画山水、文政一〇年、一軸

12、多紀元堅二行書、一軸

13、千春画・多紀元堅撰書「仲景像」、一軸

14、原南陽画書墨竹、文政元年、一軸

15、吉益鄰齋書幅「少年易老学難成」、一軸

16、東洞翁墨蹟題言、一軸〔中村佛菴書の「毒鼓因縁」（？）に三上章瑞、秦恭徳、谷其章、奈須恒徳、袁嘉裕、大倉八海、荻野八百吉の題言をつける〕

17、「郡山樓所蔵医書目録」、一冊〔内表紙には「以呂波別呉氏医書目録　杜溪書院」とある、「郡山樓」、「杜溪書院」はともに呉先生書斎名、呉先生自筆、おそらく留学前のもの〕

18、箕作阮甫手稿「泰西名医彙講」巻四、一冊〔「象先堂蔵」野紙、「菊池大麓図書之記」の印〕

19、箕作阮甫手稿「外科必読」一—六、六冊〔「咸宇書厨」野紙、「呉紙文庫」印〕

20、箕作阮甫訳並書「解毒通表」、一冊〔「象先堂蔵」野紙、菊池大麓による識語紙片つき〕

21、箕作阮甫書「孔思蒲律古方剤」、一冊〔「菊池大麓図書之記」の印〕

22、伊東玄朴訳、箕作阮甫手稿「医療正始」第八編、二十二、一

冊〔「菊池大麓図書之記」の印〕
23、箕作阮甫手稿（晏妥儒傑氏著）「産科簡明」、三冊（首、巻四、
樅堂雅言）〔首巻は「樂忘居蔵」の罫紙で、内容は目録および
図、「菊池文庫」の印、巻四および「樅堂雅言」には「菊池大
麓図書之記」の印〕
24、紫川道人謙・田原綱玄周校訂、北島謙写「産科簡明」、四冊
（玄・亨・利・貞）〔第一冊「玄」は「目録并図解」〕
25、箕作奎吾書「英語字引」・箕作秋坪書「改訂増補訳鍵」、合一
冊〔「菊池大麓図書之記」の印〕
26、箕作秋坪手稿、一冊〔青年時代の菊池矩名のものもふくめ
て、文章稿をとじこんだもの、「菊池大麓図書之記」の印〕
27、箕作奎吾手稿「海陸軍」、一冊
28、箕作奎吾手稿「ペントンビル 牢屋ノ記」、一冊〔明治初年の
雑誌『万国新話』原稿〕
29、「精神病学随鈔」、一冊〔「医学綱目頓医鈔」、「妖怪門勝光伝」、
「秉燭或問珍」、「越人関弓録」よりの抄録〕
30、吉益周助事蹟関係書、一冊〔大正五年、青木正興あて手紙ほ
かで、吉益周助関係書類抜き書き〕
31、「秘事養生伝」、一冊〔性事関係写本〕
32、仏 マイフ・リール著、和蘭 傑乙漢越訳「銀海燃犀録」、一
冊〔眼球構造のこと、箕作阮甫筆か、「鍛冶橋第箕作氏記」の印
および「菊池文庫」の印〕
33、華岡青洲著「瘍科鎖言」、一冊〔鈴木玄益写、荒川昇之助蔵
より藤波萬徳蔵〕
34、「樂忘居漫筆」五之一、一冊〔「樂忘居蔵」の罫紙、樂忘居
は箕作阮甫の庵名、字は何名かのもの、「菊池文庫」の印〕
35、「杉氏解体約図」、一冊〔安永二年版の写、五枚〕
36、「救偏瑣言」、巻九巻十合本、一冊〔木版〕
37、「精神病史稿」、二冊〔「時還読我書」および「叢桂偶記」、
木版のものの貼り込みおよび筆写、一部分は呉先生字、「呉氏
文庫」の印〕
38、堀元厚編「医経名数」巻之六、一冊〔写本、「呉氏文庫」の
印〕
39、本間棗軒著「内科秘録」巻五、自準亭蔵版、一冊〔木版、「富
士川家蔵本」の印〕
40、竹中敬著「古今養性録」巻七、一冊〔木版〕
41、「文化丁卯中秋蓬庵賞月雅会」、一冊〔蓬庵は片倉元周読書
処、何人かによる書画帖、「呉氏蔵書之印」の印〕
42、「江漢西遊日記・西遊旅譚」、三冊〔陸士学校本より大正一
五年抜写〕
43、「佳語抄」、一冊〔「王龍谿文集」巻一・巻四、「山海経」ほ
かからの抜写、享和三年、「呉氏文庫」の印〕
44、「桂園詠草おく書」、一冊〔写本、三浦千春蔵、三浦千春は
呉先生岳父〕
45、呉黄石写「精勤堂方符」、一冊〔表紙に題名のわきに「臥熊
仙窟」とある、これは呉先生の父君黄石の庵名〕
46、「ケンペル問合（四〇舗）」、一包み〔呉先生のケンプェル訳
出にさいしての問い合わせへの返事〕

47、呉秀三編「日本洋学史料」、六冊

47—2、呉秀三編「続日本洋学史料」、七冊〔47とともに、洋学史上の各人についての書き抜き帖、「洋学の発展と明治維新」の資料としたものか〕

48、「医聖堂叢書」、三冊〔いずれも写本で、「西京名医金石文 一」、「西京名医金石文 四」、「京師名医墓碑 二」がそれぞれ副題としてはいっている、いずれも「呉氏蔵書之印」の印をけして、第二のもの・第三のものに「富士川家蔵本」の印がある〕

48—2、「医聖堂叢書」、一冊〔壺山中川修亭編「本朝医家古籍考」がその内容で、「呉氏蔵書之印」および「呉氏文庫」の印あり、48とこれの計四冊は同様の和装〕

49、呉秀三稿本「医聖堂叢書」、一六冊〔「古今図書集成」二冊、「聊斎志異」、「今昔物語」二冊、「栄華物語」・「続左丞抄」・「十訓抄」・「令義解」・「類聚符宣抄」、「中右記」、「水鏡」・「大鏡」・「今鏡」、「古今著聞集」・「古事記」、「続史愚抄」、「吾妻鏡」、「元亨釈書下」、「宇治拾遺物語」、「後鑑」、「群書類聚」二冊からなる筆写本、数名の筆であり一部分に呉先生の朱がはいっている、洋装、大正一二年発行の『呉氏医聖堂叢書』の続篇が準備されていたのか〕

50、宇津木益夫編「日本医譜」、一七冊〔写本、一〇冊および「続日本医譜」四冊、ほかに「富士川家蔵本」、「宮本氏文庫」ほか一、計三冊の異本〕

51、大槻玄澤「蘭畹摘芳」、一九冊〔博物館本の伝写、目次・一—四編、ペン字で図の写真および略摸写も〕

52、富士川子長編「日本医志稿 医人譜」、三冊〔「富士川家蔵本」の印〕

53、「阿蘭陀外科正伝」、一冊〔河口家蔵河口良庵自筆本より写、ペン字、「呉氏手稿」〕

54、「スチーピン伝来外科秘伝書・アルマンス秘方阿蘭外療集」、一冊〔河口家蔵本より写、ペン字、「呉氏手稿」〕

55、「吉田三門一致集」、一冊〔河口家蔵河口信任自筆本より写、ペン字、「呉氏手稿」〕

56、良庵河口春益稿「外科要決全書」(一—五)、二冊〔河口家蔵河口良庵自筆本より写、ペン字、「呉氏手稿」〕

57、「金瘡師語録」、一冊〔河口家蔵河口良庵自筆本より写、ペン字、「呉氏手稿」〕

58、「膏薬方」、一冊〔「加福氏ヨリ伝」とある、河口家蔵河口信任自筆本より写、ペン字、「呉氏手稿」〕

59、「腫物見立書、諸腫物治方」、一冊〔河口家蔵河口信任自筆本より大正一四年写、ペン字、「呉氏手稿」〕

60、「大槻文庫目録」、一冊〔大正一五年五月中旬浄書、ペン字〕

61、「青嚢秘録」、一冊〔「外科続禁方録」もともに、ペン字写、洋装〕

62、「続通信全覧 蘭人シーボルト徴雇一件」、三冊〔写本〕

63、「秋坪丈」、一冊〔箕作阮甫より秋坪あて書簡七四通を整理してうつしたもの、同字・同体裁で「菊池文庫」の印のあるものが別所にあり、これも菊池大麓旧蔵のものであろう〕

64、嵐山甫安編「番国治方類聚的伝」、一冊〔ペン字写、最後に

「不二彦」署名いりの解説あとがき〕

65、列散廼夫（レザノフ）「奉使日本紀行」（一―一二）、五冊〔「国書刊行会」原稿用紙に写〕

66、「吉益家門人録」、二冊〔写本〕

67、「中山家等文書」、三冊〔シーボルト関係、オランダ文をタイプした紙の貼り込み、呉先生によるその訳、ほか何名かの字、ペン字・筆字とも〕

68、安部龍「下間雑載」、一冊〔騰写版〕

68―2、「失勃児督処方録・失伊杜爾督処方籍」、一冊〔ペン字写、「失勃児督処方録」は戸塚静海録、「失伊杜爾督処方籍」は入澤恭平写〕

68―2′、「シーボルト記事」、一冊〔印刷公表されている記事・論文の筆写、高良齋や上生玄碩のことも〕

69、コイペル「欧洲におけるシーボルト」、一冊〔『シーボルト先生渡来百年記念論文集』所載のものと同文、ペン字写、表紙は呉先生字、一般書架でWZ 100 SI〕

70、「禁方拾録」、一冊〔ペン字写〕

71、逢谷生「日本記聞」下、一冊〔本文はじめに「英吉利人日本に通ぜんとする方略」とある、「呉氏稿本用紙」に写、逢谷は箕作阮甫の号〕

72、土生玄碩門人水野善慶「師談録」、一冊〔写本〕

73、菅竹浦「義士の厄日」、一冊〔『東洋大学新聞』切り抜き〕

74、呉秀三『新撰人身生理学』、二冊〔上は明治二六年九月一〇日発行、ときの著者住所は本郷区駒込曙町一六番地、下は明治二七年五月二二日発行、ときの著者住所は本郷区西片町一六番地〕

75、呉秀三『最新生理学及衛生学』、一冊〔明治四〇年七月三〇日発行、漢文〕

76、片山國嘉・呉秀三訳『断訟精神病学』、一冊〔ホフマン原著『法医学大成』第三冊、明治二八年九月三〇日発行〕

77、呉秀三『脳髄生理精神啓微』、一冊〔明治二三年一〇月一〇日発行、再版〕

78、榊俶・呉秀三『法医学提綱』、一冊〔明治三〇年四月二日発行、『増補改訂法医学提綱』下編で、精神病論、上編は片山國嘉、中編は江口襄がかく〕

79、富士川游・呉秀三・三宅鑛一『教育病理学』、一冊〔明治四三年三月一日発行〕

80、呉秀三『華岡青洲先生及其外科』、一冊〔大正一二年〕

81、大槻文彦『箕作麟祥君伝』、一冊〔明治四〇年発行〕

82、芸備医学会編『三宅董庵先生小伝』、一冊〔明治四一年発行、和装本〕

83、富士川游編『芸備医人伝』一輯、一冊〔大正五年発行〕

84、呉博士伝記編纂会『呉秀三小伝』、一冊〔昭和八年〕

85、増田知正・呉秀三・富士川游編『日本産科叢書』、一冊〔明治二八年発行〕

86、呉秀三「洋学の発展と明治維新」、一冊〔『明治維新史研究』別刷り、みあたらず〕

87、榊保三郎『性慾研究と精神分析学』、一冊〔大正八年発行〕

88、澤田武太郎『箱根の植物』、一冊〔昭和一〇年発行〕
89、羽太鋭治『一般性慾学』、一冊〔大正一〇年発行〕
90、古加重利「高一修身書例話の基礎的研究」、一冊〔東京大学医学図書館呉文庫目録に「一九三〇—八月脱稿」とあるので原稿か、みあたらず〕
91、呉秀三「南川維遷と幡崎鼎」、一冊〔『医文学』第三巻第四号別刷り、表紙に呉先生の字で「校本」と朱筆〕
92、August Hirsch (hrsg.): "Biographisches Lexikon der hervorragender Aerzte aller Zeiten und Völker", Wien & Leipzig, 1884–88, 6v.
93、Jean Louis Petit: "Verhandeling van de ziekten der beenderen, waar in men vertoont de Verbanden en Konftuigen tot derzelver Genezing behoorende. Door Jean Louis Petit. Vertaalt door Johannis Hoogvliet. Tweede deel. Te Rotterdam, br Philippus en Jakobus Losel, Boekverkoopers, 1750. 1v. ["Arasyama Hoan" の署名あり〕
94、Oskar Täger: "Weltgeschichte", in vier Bänden. Aufl. 8. Bielefeld & Leipzig, Velhagen & Klasing, 1903–7, 4v.
95、林茂淳記「箕作阮甫先生のことに付いて」、一冊〔速記者林茂淳が呉文聰、清水卯三郎、田中健治母みつ子、田中健治、杉亨二、中澤廣江、須川賢久、菊池大麓、津田弘道母伸子、宇田川すみ子、児玉琢磨、田中みつ子、須川賢久の談話記録をまとめて、索引までつけたもの、前書きには明治四三年八月とある、「呉氏文庫」の印あり、呉先生の『箕作阮甫』の資料となったものだろう〕

番外

呉秀三『人身生理学』訂正五版、一冊〔明治三二年七月二八日発行〕
呉秀三「吉益東洞先生」、一冊〔『東洞全集』別刷り〕
山崎佐『医事判決例抄』、一冊〔大正四年七月一日、日本法医学会発行〕
箕作秋坪手稿「医学提要」第六編、一冊〔「菊池大麓図書之記」の印〕
箕作阮甫手稿「西洋薬表活人小冊」、一冊〔「菊池大麓図書之記」の印〕
「失勃児杜験方録」、一冊〔一八二三—二七年分のもの、あたらしい写本〕
「徳川氏以来医史稿」三、一冊〔表紙は呉先生の字、あとは木版のものの貼り込み〕
「我邦古医書大概」、一冊〔多紀元堅自筆「皇国医書蔵目」をほかの人がうつしたものに呉先生が加筆しているのか〕
多紀桂山著「薬性提要」、一冊〔「多紀柳沂先生十歳写本」とある、「呉氏蔵書」の印〕

この目録をつくるための調査は、東京大学医学図書館でつくられていた目録をもとに現物と照合した。内容のこまかい探索はおこなえず、同目録および現物につけられている記載紙箋によったところもおおく、誤りなきを期しがたい。調査のうち一回は箭内

健次先生がご同行くださった。

今回の目録の発表については、東京大学医学図書館長岡田重文教授の許可をえた。この文庫の存在をご教示くださったのは、もと同図書館につとめておられた日本医史学会会員・日本医学図書館協会名誉顧問中里龍瑛氏である。また調査にあたっては、同図書館勤務の田辺文子さんのお手をわずらわせた。記してこのご三人にお礼をもうしあげる。